

留萌南部森林管理署  
計画保全部 治山課

佐々木 颯  
金子 裕馬

## 研究の背景・目的

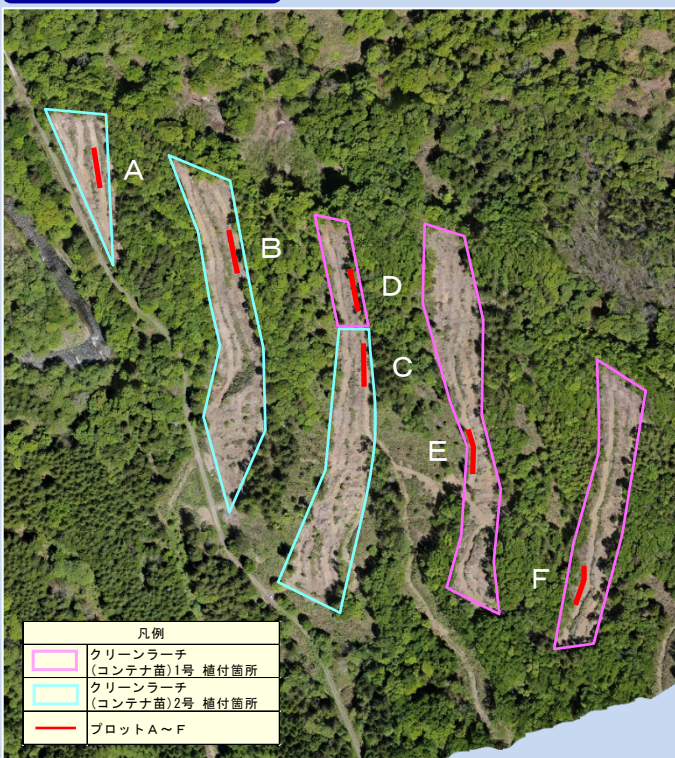
近年、北海道の森林は主伐期を迎え、造林事業量が年々増加している一方で、これに伴う苗木不足が全道的な課題となっています。また、「北海道森林管理局新しい林業実行プラン」では「下刈回数の削減」「低密度植栽の推進」等の造林コストを縮減する取組が掲げられています。

こうした中、当署では「苗木の規格差による『生長量』『活着率』等の違い」を調査し、規格差による生長量の違いの有無、下刈完了までにかかった経費の差等を明らかにし、今後の苗木規格を選択する際の一指標となることを目的に令和2年度植栽箇所、令和3年度より本試験を実施してきました。

本発表では現時点の成果を報告するとともに、今後の展開について考察しましたので発表します。

## 研究の内容・成果

### 試験地の概要



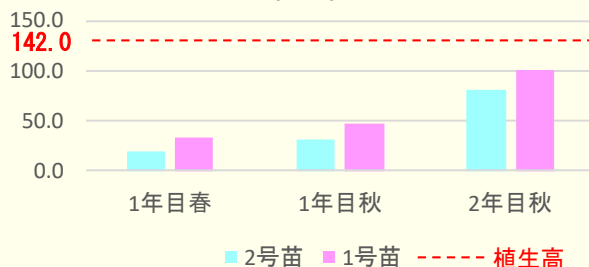
林 小 班：67林班い小班  
区域面積：7.80ha 実行面積：2.79ha  
植付樹種：クリーンラーチ(コンテナ苗) ※緩効性肥料入り  
植付本数：1号苗…2,700本 2号苗…2,900本 ※2,000本/ha  
地拵仕様：筋刈 刈幅 3.0m × 残幅 5.0m ※大型機械  
植付仕様：2条植 列間 1.50m × 苗間 1.25m  
下刈回数：1回刈 (令和4年度から実施)  
地 況 等：南西向、標高：140m~260m、傾斜：16° ~25°

### 考察・今後の展開

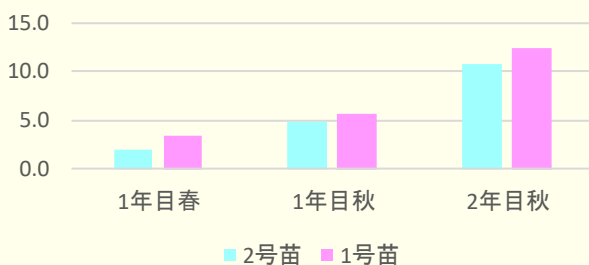
今回の調査の結果、規格差による苗長、根本径については一定の差がありましたが、生長量については大きな差はありませんでした。また、活着率についてはプロット箇所の植栽条件の違いにより差が表れたものの、植栽条件の近いC、Dプロットでは大きな差はないことから、規格差による活着率の差はないと推察します。今後は苗長が植生高を何年目に上回るかが焦点になることと、大型機械地拵や生長の良い品種の使用による下刈回数の省略等、造林経費のトータルコストにも着目して、次年度も引き続き試験を実施する予定です。

### 調査結果

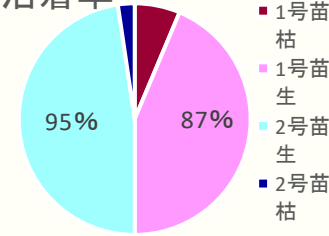
#### 苗長(cm)比較



#### 根本径(mm)比較



#### 活着率



#### 経費比較 ※千円/ha

